

十月二十八日夕刊
(朝夕併せて八頁)

◆軍團組織問題

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

向へり同地より乗船順地に赴く
資 具等特也

◇紐育諸株騰貴
紐育に於ける諸株二十一日に至
り一齊に騰貴せり紐育電報

◇慰問代議士通
浦羅よりイルツク方面迄海軍
家を慰問したる衆議院議員連名宛代議
士十國中の望月圭介氏外三名は二
十七日午後三時頃、

しが一方十地調局の官制廢止は
數日前の閣議にて決定したるに付て
多分十一月五日施行の期念にて今令
布する所也

▲残務處理 十地調局官官
廳廢止後の殘存事務該課所管の地
籍調査並に疫病豫知に屬する土地調査
行地誌等將調查その他なるが右
は概略として大正三年三月末日ま
で局員若干人を留するを企圖せしむ

[illegible]

千四百四十錢之額
 千六百二十戶此の額三
 十二、八四八錢總計敷に
 萬三千六百一戸、税額に
 三千四百八十三圓二下
 其内をみるに一、零一
 万、二、七百六十圓、
 りて二萬二千百十二圓、
 に在りて五百八十八戸、
 二、千九百十圓を算し、
 梅、民、政、吏、更、藏、監、
 再、見、策、計、時、
 官、の、
 職、の、
 配、
 一、
 十、
 七、
 上、
 下、
 正、
 軍、
 方、
 力、
 能、
 至、
 一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、
 十一、
 十二、
 十三、
 十四、
 十五、
 十六、
 十七、
 十八、
 十九、
 二十、
 二十一、
 二十二、
 二十三、
 二十四、
 二十五、
 二十六、
 二十七、
 二十八、
 二十九、
 三十、
 三十一、
 三十二、
 三十三、
 三十四、
 三十五、
 三十六、
 三十七、
 三十八、
 三十九、
 四十、
 四十一、
 四十二、
 四十三、
 四十四、
 四十五、
 四十六、
 四十七、
 四十八、
 四十九、
 五十、
 五十一、
 五十二、
 五十三、
 五十四、
 五十五、
 五十六、
 五十七、
 五十八、
 五十九、
 六十、
 六十一、
 六十二、
 六十三、
 六十四、
 六十五、
 六十六、
 六十七、
 六十八、
 六十九、
 七十、
 七十一、
 七十二、
 七十三、
 七十四、
 七十五、
 七十六、
 七十七、
 七十八、
 七十九、
 八十、
 八十一、
 八十二、
 八十三、
 八十四、
 八十五、
 八十六、
 八十七、
 八十八、
 八十九、
 九十、
 九十一、
 九十二、
 九十三、
 九十四、
 九十五、
 九十六、
 九十七、
 九十八、
 九十九、
 一百、
 一百一、
 一百二、
 一百三、
 一百四、
 一百五、
 一百六、
 一百七、
 一百八、
 一百九、
 二百、
 二百一、
 二百二、
 二百三、
 二百四、
 二百五、
 二百六、
 二百七、
 二百八、
 二百九、
 三百、
 三百一、
 三百二、
 三百三、
 三百四、
 三百五、
 三百六、
 三百七、
 三百八、
 三百九、
 四百、
 四百一、
 四百二、
 四百三、
 四百四、
 四百五、
 四百六、
 四百七、
 四百八、
 四百九、
 五百、
 五百一、
 五百二、
 五百三、
 五百四、
 五百五、
 五百六、
 五百七、
 五百八、
 五百九、
 六百、
 六百一、
 六百二、
 六百三、
 六百四、
 六百五、
 六百六、
 六百七、
 六百八、
 六百九、
 七百、
 七百一、
 七百二、
 七百三、
 七百四、
 七百五、
 七百六、
 七百七、
 七百八、
 七百九、
 八百、
 八百一、
 八百二、
 八百三、
 八百四、
 八百五、
 八百六、
 八百七、
 八百八、
 八百九、
 九百、
 九百一、
 九百二、
 九百三、
 九百四、
 九百五、
 九百六、
 九百七、
 九百八、
 九百九、
 一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、
 十一、
 十二、
 十三、
 十四、
 十五、
 十六、
 十七、
 十八、
 十九、
 二十、
 二十一、
 二十二、
 二十三、
 二十四、
 二十五、
 二十六、
 二十七、
 二十八、
 二十九、
 三十、
 三十一、
 三十二、
 三十三、
 三十四、
 三十五、
 三十六、
 三十七、
 三十八、
 三十九、
 四十、
 四十一、
 四十二、
 四十三、
 四十四、
 四十五、
 四十六、
 四十七、
 四十八、
 四十九、
 五十、
 五十一、
 五十二、
 五十三、
 五十四、
 五十五、
 五十六、
 五十七、
 五十八、
 五十九、
 六十、
 六十一、
 六十二、
 六十三、
 六十四、
 六十五、
 六十六、
 六十七、
 六十八、
 六十九、
 七十、
 七十一、
 七十二、
 七十三、
 七十四、
 七十五、
 七十六、
 七十七、
 七十八、
 七十九、
 八十、
 八十一、
 八十二、
 八十三、
 八十四、
 八十五、
 八十六、
 八十七、
 八十八、
 八十九、
 九十、
 九十一、
 九十二、
 九十三、
 九十四、
 九十五、
 九十六、
 九十七、
 九十八、
 九十九、
 一〇〇、
 一〇一、
 一〇二、
 一〇三、
 一〇四、
 一〇五、
 一〇六、
 一〇七、
 一〇八、
 一〇九、
 一一〇、
 一一一、
 一一二、
 一一三、
 一一四、
 一一五、
 一一六、
 一一七、
 一一八、
 一一九、
 一二〇、
 一二一、
 一二二、
 一二三、
 一二四、
 一二五、
 一二六、
 一二七、
 一二八、
 一二九、
 一三〇、
 一三一、
 一三二、
 一三三、
 一三四、
 一三五、
 一三六、
 一三七、
 一三八、
 一三九、
 一四〇、
 一四一、
 一四二、
 一四三、
 一四四、
 一四五、
 一四六、
 一四七、
 一四八、
 一四九、
 一五〇、
 一五一、
 一五二、
 一五三、
 一五四、
 一五五、
 一五六、
 一五七、
 一五八、
 一五九、
 一六〇、
 一六一、
 一六二、
 一六三、
 一六四、
 一六五、
 一六六、
 一六七、
 一六八、
 一六九、
 一七〇、
 一七一、
 一七二、
 一七三、
 一七四、
 一七五、
 一七六、
 一七七、
 一七八、
 一七九、
 一八〇、
 一八一、
 一八二、
 一八三、
 一八四、
 一八五、
 一八六、
 一八七、
 一八八、
 一八九、
 一九〇、
 一九一、
 一九二、
 一九三、
 一九四、
 一九五、
 一九六、
 一九七、
 一九八、
 一九九、
 二〇〇、
 二〇一、
 二〇二、
 二〇三、
 二〇四、
 二〇五、
 二〇六、
 二〇七、
 二〇八、
 二〇九、
 二一〇、
 二一一、
 二一二、
 二一三、
 二一四、
 二一五、
 二一六、
 二一七、
 二一八、
 二一九、
 二二〇、
 二二一、
 二二二、
 二二三、
 二二四、
 二二五、
 二二六、
 二二七、
 二二八、
 二二九、
 二三

何者之は、何者之は、何者之は、
 家爲に希望せんま
 戦争の準備を豫期
 八月以來、遂に
 人々に戰に絶に
 猛勢を以てたる
 手段の監望、以監望
 平野の砲臺を出
 現今命は多大の戰
 なる戦役を有し
 國への影響は甚大

公債株式
 現物問屋
 〇丸五主

東京府赤堀町 子見番地
 ◎株式の選擇は丸五問會調查




[illegible]

設保稅倉庫營業
 右特許ヲ受ケ
 ニ於テ開始仕候
 株式會社 朝鮮商業銀行
 南大門支店

京城日報

日本出兵論の
燃ゆるなきか

獨逸の三つの交渉をさせる
 べし。米國大總統は其の休戰申
 出を聯合各邦に通告するを許し
 たるが、之共に獨逸に提示した
 條件は、完全なる獨逸の武
 力解除を以て、獨逸は果し
 如何なる態度を以て之に應ず
 るか、極めて興味ある問題也。
 獨逸は既に平和を欲するなら
 ば、如何なる條件に要求する
 かと如クインの言、までも捨
 てる所願に申出でんば、吾
 らは其條件を許す通り、如何に
 損傷を受ける所なり、
 今や二百餘萬に達したりといへ
 ば、それだけにて、非難の意味を
 加へたるに相違なし。若し其の底
 力を割き伊國文は然る種方面より
 獨逸を却し、之をして下獄請願の
 餘隙なきに至りしを、如何に
 耐堪なる獨逸にても、竟に其腹の
 止むべからざるものあら。而ち
 聯合軍に示しては、是より手取早
 く獨逸を屈服せしむるの策別に
 之あり。何ぞや。日本の露國間に
 獨逸の所態はなり。何となれば獨逸
 が、其平和を急ぎつゝあるは、た
 ん西部に於いて多少失ふ所あり
 といふ事なり。

[illegible][illegible]

に編輯し、定款的で久松の計畫を立てるならんと思はれり。然して是は政界作戦として成功し得ざるを覺悟せるを以て、國體護衛の爲めは海軍の勢力を以て之を講和交渉の下から取り去らんとするは、勢ひの當然なり。

三

今日の狀態を以て獨逸の無條件降参を懸想するが如き真に痴なる腹をかくし、歐戰を脱却し、武備解除を甘附する秋は、少くもライン線の得失失たるの後には、さうすべからず。而して獨逸にして然る外敵に出でたる場合には、歐人事が之を容赦せざるに至りし事、全然當然なる事と思つて可い。

**△オ政府の基礎　雲にオ
西伯列の秩序**

ムスク政府の宰相ワロドグエスキーの東行不在中に乘じてクーデターが勃發したの裏面に彼のデルベルの畫策の暗示せしこゝは當時のヘルレたる處なりしが最良勇筋に於ける情狀に使はれたデルベルは此點及びオムスクに實行せりと言ふ先づの失敗にも懲りず重ねて西伯列の諸部を行動せしオムスク政府の陰謀を遂げしこの目的に非ざるかと推されるデルベルは自ら既に國民民主黨員なり云ひ成るに國民主義に屬するものと思つて、これを公然實行する事の中に過言

[illegible]

なる。今日西國戰勝は、非なる。今日の好況を示し、一日に幾テロを進出しつゝあるは、畢竟に獨断が決定の退却なるに於いて、之を勝利と稱すからることは、戦勝を稱するは終らざる。彼が純過激派なることは、今日や疑ふからざるに在り。若しオムス政府はチエック軍の後援に依りて勝つて現在に在るは所屬は露國の僥倖に賴るに在り。若し敗るは露國の僥倖に賴るに在り。露國は失敗に及ばざるに在り。

以上述べた如く之を承認せんとすは、國權上の正當なる問題にたりとあり、未だ聯合國間の問題たるに至りやと云へる。

△ウ政府の立場

尙ほウ・ア・なる全歐政府はオムスウ政府に於ても之を認め、現にウ・ア・ド・ゴキキーはウ・ア政府五執政官の一として外交演説に當りて、

である。カイゼルに對してナポレオン以上の個體がなくてはならないとの意向を有する人も尠くない。

此のみならず、獨逸國に對し、身に於て最も正當の制度を加へねばならぬとの公意に對して、

個人の團體的に相當の尊重を執るべきである云々の當日、



三十三 佐々木峰子
財布の主

「さうで、見るから美男なれば、
見えたれたうなことを押しこめ
て、
「さうだ、」同は驚きであつた。
「安武はうなるのか、目か附は
ないか、」
「附はやがて附つてゐた眼を、
「さうで、見るから美男なれば、
見えたれたうなことを押しこめ
て、
「さうだ、」同は驚きであつた。
「安武はうなるのか、目か附は
ないか、」
「附はやがて附つてゐた眼を、

「ぢや當てよう、此中には十圓、
幣が五枚で五十圓、それに五圓
一枚に五十圓の紙幣五枚、それ
に銀貨一七圓、總て六十四圓五
錢ある者ぢや、さ二圓貫はう」

を「うだ富つたらう」刑事の目
光つた。
「年取つた身で不憫だが一應本報
へ引致する……」刑事は財布を
分のポケットへ入れた。」

「お、……」惣兵衛は驚く／＼利平の顔を見出した、其手は、
しほに握つて居た。
「お、……」利平は財布を取り上
て、無難作にさう／＼銀貨を
のれへ出した。
「此通りだ、乃公の調通り七
あるだらう、利平の目は惣兵衛
面を矢のやうに射した。
「それから、銀幣を残らず出
して、銀幣をさう／＼、五十
か、五圓か、一圓、五十錢の
三枚のあたり、お、五十錢の
枚は今し、無／＼なつたのだ、

「是聲は萬葉集の御の玉のやうな
味がある。一間はあゝ驚いて
座は振に白氣立った。
『さし出さうい。』
堀り終つた。
『お、お、お、出さないか、さうしこの
間、さうして押さなければならぬ。』
戻ると、取り切りに寫るのを
や、無いわ。押さの聲は澄み切つて
来た。
『これか、これは……』
『愚鹿の腰は急に振りの聲
で、し、し、し云へば獅子に乗
て、そりや何と申せ。乃公は腰

「さう、わがしの財帛は誠に人に
に見せやうは能きません。蒙兵質
は財帛を略く振つて紳士を辱しめ
た。」

「はい、成程。貴族は人に見せ
ざる事は能まい。さう、貴族
のやがてを改めて、然るに今分
は職務に財帛を二應調べて見
せよ。此處へ出しない。」

「貴族は、さういふ生白上
の男は思はれぬ。其の聲を果れた。」

「お、職務に調べねばなら無い
ぢやうなものな。」

「男公和事ぢやう。」

「武市衛の酷い息は續つた、源作は
この一問は空しく返つた。
『逆』と紳士は笑つてゐるや遣
はせられた。それから六十四圓四角半に賣つたが、其中三厘五厘房に一圓半出で残布の金は六十圓五十錢だ。それだけ間違はないと源作を指し示した。」

「今日お話を」
「その財源此處へ出して請べてゐる見えないか？　遠慮なく身を肩負ふよう紳士の人は熱を持つて來た」「世へへしないかい、出して置く」

包むを包含するを又強制壓
世が

朝鮮語の先生

[illegible]

必要なる所を採る

本書は多年製行集に採りし能くせざる者や實際上より一般の會社商店に必要なる前法を通俗化し、各員に採りしものも、法律の本意なき人にも容易に理解せしむる各員の利便を主とする、好む所を採る。

書翰文習字帖 金五十圓
實用習字帖 金十圓
手紙と葉書書方 金十圓
商業書式習字帖 金十圓
模範習字手本 金十圓
數字練習帖 金十圓

實驗園藝大多千葉昭吾先生著

[illegible]

▲冬になつて一番相切に御寒じになるのは羨い事と延て燃料の高
 價なる事だと思ひます！
 ▲此二つのものは、**ペーチカ**を設備なさるゝ事に依つ
 て大に輕減せらるゝのであります！
 ▲**ペーチカ**の設備は意匠詰つてからでは間に合ひま
 せん、今の内の御計畫が大切であります！
 京坂府屋江通八番地
 ペーチカ設備専門 宮崎組
 説明書御申越有次第贈呈
 電話 關山五四二番
 振替口座 京城五四〇九番
 定価 四六判三二頁
 附録 附録三頁
 送料 五拾八錢
 法學士 樵津盛一先生 共著
 學政雜誌 富中參二郎先生

九及びフリーリーグ、穀物の輸入を従つて特産品に属する品目の一割を占む他の一割内外の穀物便が問題の焦點となる大減價を免れるべく、米をミッドリング及び其以下の品類然れ共本年は即ち棉を米棉に置き、米を

十一月號から連載の長田幹彦氏新作時雨唄
は案の如く忽ち世間の大問題となりました

開業廣告

一資本金貳百萬圓

營業科目

- 一、耕牛ノ貸付、畜牛牯ノ預託
- 一、牛皮牛骨、生牛ノ賣買輸移出入
- 一、畜牛ニ關スル附帶事業其他畜牛以外ノ家畜、羊毛獸毛皮、獸脂、獸骨ノ賣買輸移出入
- 一、曬詰、動物化學工業其他畜產物の利用工業
- 一、牧畜ノ經營

耕牛ノ貸付ハ東拓ノ事業ヲ其儘引繼キ本店及東拓出張所駐在員ニ於テ從來通取扱申候

駐在員諸所

平塚 汐見屋水頭 臨山 元山ノ東拓出張所内

取締役社長

賀田直治 監査役 川上常郎

専務取締役

足立丈次郎 監査役 松井小右衛門

取締役

白完 燃 新太郎

株式會社 興業 畜産 東洋

京城南門四通丁二番地

主幹 藤森良藏
編輯 北村三六郎
編輯 北村三六郎
編輯 北村三六郎

●激烈なる現下の競争試験に打勝つる者の是非讀まね損の雜誌

豫備受験
考へ方

號目一十

新家庭

定價 二角
送料 二角
定額 四角
定額 六角
定額 八角
定額 一元
定額 一元二角
定額 一元四角
定額 一元六角
定額 一元八角
定額 二元

支文社

[illegible]

大正七年十一月一日ヨリ 諸預金利率
ヲ左記ノ通り改正仕候

一、定期預金 六^{ハク}切百圓^{ハク}年^ニ付^キ六分

一、當座預金 百圓^{ハク}年^ニ付^キ七厘

一、^{特別}預^金 金 百圓^{ハク}年^ニ付^キ壹錢二厘

大正七年十月二十九日

株式會社 京 城 銀 行

株式會社 朝 鮮 商 業 銀 行

株式會社 韓 一 銀 行

株式會社 漢 城 銀 行

唯之がたき、種分留置の低下を
さるべきか。中麻、棉の缺
來すが如きはあらんか。機業

三井物産
金部監照
川柳市監

三月三日
四月五日

休戰提議滑稽事 獨罪惡賠償の時機

佛國の輿論と兩氏の演説

佛國の輿論は、休戰提議を滑稽視し、獨罪惡賠償の時機を論じている。佛國の輿論は、休戰提議を滑稽視し、獨罪惡賠償の時機を論じている。佛國の輿論は、休戰提議を滑稽視し、獨罪惡賠償の時機を論じている。

獨降服條件申合

獨降服條件申合

英國代表者集合

英國代表者集合

英國外相の演説

英國外相の演説

米回答と獨輿論

米回答と獨輿論

チエツク民族歡喜

チエツク民族歡喜

英佛軍要地占領

英佛軍要地占領

英軍敵逆襲撃破

英軍敵逆襲撃破

獨逸鐵道員復隊

獨逸鐵道員復隊

獨社會黨議員禁解

獨社會黨議員禁解

匈內閣辭職聽許

匈內閣辭職聽許

匈牙利軍隊反亂

匈牙利軍隊反亂

國際聯盟目的

國際聯盟目的

獨政府改造提議

獨政府改造提議

英軍烏拉戰線參加

英軍烏拉戰線參加

過激派兵の暴行

過激派兵の暴行

千生東宮武官

千生東宮武官

岡商工局長

岡商工局長

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

英軍烏拉戰線參加

英軍烏拉戰線參加

過激派兵の暴行

過激派兵の暴行

千生東宮武官

千生東宮武官

岡商工局長

岡商工局長

獨政府改造提議

獨政府改造提議

英軍烏拉戰線參加

英軍烏拉戰線參加

過激派兵の暴行

過激派兵の暴行

千生東宮武官

千生東宮武官

岡商工局長

岡商工局長

獨政府改造提議

獨政府改造提議

英軍烏拉戰線參加

英軍烏拉戰線參加

過激派兵の暴行

過激派兵の暴行

千生東宮武官

千生東宮武官

岡商工局長

岡商工局長

獨政府改造提議

獨政府改造提議

英軍烏拉戰線參加

英軍烏拉戰線參加

過激派兵の暴行

過激派兵の暴行

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

獨政府改造提議

